



小原村(現豊田市)に嫁いだ俳人

杉田久女

大正、昭和の女性俳句の先駆けとして活躍した杉田久女。清艶豪華で雄大な作品は今も日本の俳句史に輝いている。杉田家屋敷跡で杉田久女の想いを辿る。

■交通案内



【公共交通機関をご利用の場合】

名鉄三河線/名鉄豊田線 豊田市駅から、とよたおいでんバス小原・豊田線上二本行き約1時間、永太郎バス停で降車後、北東方面へ徒歩約15分

【自動車をご利用の場合】

- 遠投グリーンロード 中山ICから国道419号を瑞浪方面へ約25分、松名町方面へ約1分
- 東海環状道路 豊田藤岡ICから国道419号を瑞浪方面へ約25分、松名町方面へ約1分

杉田久女句碑

愛知県豊田市松名町133

制作:豊田市 資料提供:杉田家

協力:小原ガイドボランティア

参考文献:『杉田宇内・杉田久女 追悼アルバム 石 昌子 編』他

問合せ:小原観光協会(電話0565-65-3808)



【代表句】

花衣ぬぐやまつはる紐いろく

紫陽花に秋冷いたる信濃かな

足袋つくやノラともならず教師妻

研して山ほととぎすほしいま、

風に落つ楊貴妃桜房のま、

無憂草の本陰はいづこ仏生会



色紙
白妙の菊の杖をぬひあげし
昭和7年作

北九州市立文学館蔵



主宰誌「花衣」
于蓋き和紙に表組絵を手書き彩色した、初めての女性による女性のための俳句雑誌。古今女流俳句の評論を執筆する。
北九州市立文学館蔵



杉田 宇内 略歴

明治十七年 愛知県西加茂郡小原村松名にて出生。
 明治三十年 愛知県立第一中学校(現県立岡崎高校)入学。
 明治三十六年 同校卒業。

明治四十年 東京美術学校(現東京芸術大学)西洋画科本科入学。
 同校本科卒業。同校西洋画科研究科入学。
 明治四十二年 福岡県立小倉中学校教諭として奉職。

昭和十年 赤堀久と結婚。以後小倉市にて居住。
 福岡県立小倉中学校退職。愛知県西加茂郡小原村松名に帰郷。

後に小倉市から教育功労者として表彰を受け、
 小倉名誉市民となる。
 久女の死後、生家に帰り葬儀。杉田家の墓所に埋葬する。
 また久女の遺品(俳句、文章、手紙、書画など)梱包して
 小原村へ持ち帰る。

昭和三十七年 小原村の自宅にて死去。(五月十九日七十八才。
 杉田家の墓地に久女とともに眠る。



杉田 久女(本名久) 略歴

明治二十三年 鹿児島市平の馬場にて出生。父赤堀廉蔵、母まよ。
 兄弟は兄二人、姉二人の三女。

明治二十九年 父の転勤により那覇へ移住。
 明治三十六年 台湾の台北にて小学校を卒業。東京女子高等師範学校
 (現お茶の水女子大学)付属お茶木高等女学校入学。

明治四十二年 同校卒業。
 明治四十四年 杉田宇内と結婚

明治四十四年 愛知県西加茂郡小原村にて長女昌子出産。一年ほど小原村で暮らす。
 小倉市にて次女光子出産。次兄赤堀月雄から俳句を学ぶ。

大正五年 「ホトトギス」二月号/白所雑誌に六句掲載。
 日本新名勝俳句山岳の部で帝國風景院賞金贈賞額贈賞を受賞。
 主筆誌「花衣」創刊

昭和二十年 福岡市外太宰府の県立筑紫保健院へ入院(十月末)
 腎臓病悪化。太宰府にて死去(二月二十日)五十五才
 杉田家の墓地に水眠。

【小原にゆかりの俳句】

師内に
 本の実の宮に
 歩みつれ

(久女)

現在、長屋門、産室のみある。
 俳句は義父母の詩集などで小原
 に滞在した時に訪んだもの。
 杉田家は旧庄屋で名家であり、屋
 敷も広く田畑、山林、果樹、竹林な
 どが大で使用人を雇っていた。



お宮さん (産室)

師内に
 祝る祖先や
 掃ゆふ

(久女)

裏門の
 さんしよ大きく
 実をあまた

(久女)

新涼の
 巻紙より
 香らぬ

(久女)

秋涼し
 朝々かゆる
 壺の花

(久女)

郎いろく
 箕の香の
 あるばかり

(久女)

西風の
 勝杖しらべ
 柿ぞだつ

(久女)

西風の
 勝杖しらべ
 柿ぞだつ

(久女)

親のせの
 うき出ま涼し
 寛の

(久女)

ふるさとに
 啼うてむすよ
 寛かな

(久女)



句碑

「ホトトギス」同人に推荐される。
 「ホトトギス」雑誌欄の巻頭を三度優ったが、
 昭和十二年、理由不明のまま除籍された。

昭和七年、小倉の成善山福聚寺で灌仏を詠んだ。
 初めて「ホトトギス」の雑誌に掲載された五句の中の一句。

観音像

長い歴史を持つ

杉田家先祖代々の霊を祀り建立。

慰霊碑

杉田久女の安寝の傍に華生を
 費やした長女昌子の忌方を讃え建立。



費やした長女昌子の忌方を讃え建立。



昭和5年頃の杉田家全景(現在は杉田家跡)